

令和3年度 甲南学園 事業計画書

昨今の国際情勢やIT化・AIの進展による先の見通しづらい現代社会は、2020年1月に確認された新型コロナウイルス感染症により、更に複雑な様相を呈する事態となっている。感染症は瞬く間に世界に広がり、社会経済活動を停滞させるとともに、人々の生活様式の変更を強いた。また働き方改革や人生100年時代の流れも加わり、社会や人間生活の仕組みを大きく変容させている。このことは学校法人の運営にも多大な影響を及ぼし、教育方法の劇的な見直しを迫る事態に至った。そしてこの感染症による影響は暫く継続するものと予想される。

このような状況のもと学園は第2世紀を歩み出したが、私立学校法の改正の時期とも重なり、ビジョンを踏まえた中期計画の策定を通し、改めて創立者平生鈇三郎先生の考え方・理念（平生フィロソフィー）に触れる機会を得た。平生フィロソフィーは、社会情勢が大きく変化する時代であっても、変わることはない大切な柱として心に留め、更なる深化を目指すとともに、中長期的な視野に立ち、学園全体で中期計画の具体的目標の達成を意識し、着実に歩むとともに、進捗を内外に公表することで社会的な役割を果たしていきたい。

令和2年度、感染症に対して教育・学生支援において教職員が一丸となって対応しているが、安心して学習できることを第一に考え、安定した教育内容を提供することが重要である。

「with コロナ」「after コロナ」の状況下にあって対面授業が容易ではない現状は、人物教育率先を掲げ、人格の修養をめざす本学園には逆風と捉える向きもあるが、新たな教育ツールの獲得機会と捉え、教職員一丸となって様々に工夫を凝らして教育プログラムを展開する姿勢は、まさに平生フィロソフィーの具現化であると言える。人物教育率先のもと、学生の学びの支援を継続してきた甲南のプレゼンスを高める歩みを止めるわけにはいかない。

令和3年度は学園中期計画を本格的に取り組む年度となる。例えば、「KONAN U. VISION2025」における6つの新機軸に沿ったKONANプレミアム・プロジェクト、「KONAN-DX」プロジェクトを始め大型の支出案件も含まれており、業務の見直しと効率的な業務推進による支出削減を行いつつ、計画推進のための財源の確保と適正な配分を盛り込んだ支出構造とする必要がある。また当面の影響は避けられないと言われる新型コロナウイルス感染症の影響も意識し、突発的な事態に対しては補正予算を組み、強靱かつ柔軟に対応するもののニューノーマルを考慮しつつ、「after コロナ」版の予算を編成することになる。限りある予算の中で、環境整備を含めた新たな支出が想定され、これまで以上に選択と集中、メリハリをつけた予算編成が必要である。以上の点を踏まえ、令和3年度予算を編成し、事業計画を推進する。

1. 予算編成方針

- (1) 予算は中期計画の中での位置付けを意識し、PDCAサイクルを踏まえた事業計画に基づき、既存事業の見直しも含めて検討した内容での申請を求め、措置する。計画は半期毎に進捗状況を確認したうえで補正予算を編成し、進捗を後押しする。なお継続事業・

業務は絶えず見直し、前例・慣例的な支出項目を再点検し、予算申請・編成に当たる。

- (2) コロナ禍などの緊急事態にあっても人物教育率先・教育力の甲南を推進し、直接的な教育プログラムに対して、コスト意識を持ちつつ積極的に投資するが、コロナ禍の影響は避けられない情勢を踏まえ、令和2年度の実情を十分に考慮して事業計画を策定し、予算申請・編成に当たる。またコロナ禍では実施困難な事業は、予算申請を受けた後、予算作成時において取り扱いを定め、様々に遭遇する事態にも対応しうる予算申請・編成を行う。
- (3) 学園収入は在籍目標者数を堅持し、多様化を図った上で、教育を中心とした本学のミッション遂行に可能な限り活用する。事業活動収支においては経常収支差額の均衡を目指し、事業活動支出の割合は99.8%を目安とする。
- (4) KONAN プレミア・プロジェクトは、年度途中に成案となる教育力の甲南を展開しうる事業経費・基盤整備にかかる支出を含めて1.4億円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。
- (5) 戦略プロジェクトとしては先端生命工学研究所に係る事業を据え、支出規模は2.7億円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。
- (6) 資産運用収入（受取利息・配当金収入）は、理事長及び学長並びに校長より提案を受けた「21世紀に輝く学園」、すなわち、「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等に重点配分する。また財源確保に努めつつも、安全で低リスクの資産運用を継続する。
- (7) 予算申請及び措置に際しては、必要性や有用性の観点を持ち、多様な手法を検討・関連部課室と連携・調整を行う。収入に対する比率が高まる人件費及び委託業務費も引き続き金額及び必要性・実効性を精査・査定し、その効力を高めることに努める。

2. 施設・設備への資金配分

人物教育を推進する場としてのキャンパスは本学に欠かせない重要資産であり、少人数教育の推進・学生相互の人間形成の役割も果たす。施設・設備への資金配分は教育活動を円滑に進める支援としての投資でもある。感染症対策など安全面・衛生面、更には遵法の観点・精神をもって、予算措置する。

- (1) 新規投資については基本的に抑制し、既存施設の更なる活用を意識する投資は費用対効果を意識し予算化する。
- (2) 学生・教職員の安全確保のための施設改修、中長期的なコスト抑制に繋がる省エネルギー等の工事については、コストに留意しつつの耐用年数を考慮して予算化する。既設校舎や構築物の経常的な改修・修理は緊急度に応じて推進し、キャンパスの環境充実・改善に努める。
- (3) 教育・研究充実のための施設・機器の更新・購入及び図書購入等は従来通りの姿勢を堅持するが、例えば電子書籍での執行など、ニューノーマルの流れも考慮に入れて予算化する。

(大学の取り組み)

KONAN U. VISION 2025

甲南教育の新たな世紀を迎えるのを機に、人物教育率先の理念のもと、教育の質の一段の向上をめざした「甲南新世紀ビジョン」を定め、全学挙げてその実現に取り組んでいる。2020年度における甲南大学のありたき姿を示した「KONAN U. VISION 2020」（2016年策定）は、独自性の高い数々の成果を生み出し、完成年度を迎えた。これを受け、成果の継承・発展と新たな挑戦によって更なる進化をめざした「KONAN U. VISION 2025」を定め、2021年度から、同ビジョンにもとづく6つの教学新機軸に沿った取り組みを開始する。また、この新機軸に紐づいた「KONAN プレミア・プロジェクト」を展開するとともに、共通教育充実化、大学院充実化、ブランディング推進等の主要課題に関するタスクフォースを設置し、これらの活動を通じて、ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進める。

(教学新機軸に関する令和3年度の主な取り組み)

①ミディアムサイズ総合大学の特色を生かした質の高い教育基盤の確立

授業規模・方法の最適化にむけた検討の開始、KONAN 学修ポートフォリオの活用促進、学生支援の連携強化に向けた体制の整備、認証評価改善課題への対応強化など

②新たな時代に向けた甲南教育プログラムのさらなる発展

知能情報学部およびマネジメント創造学部の教育改革によるコース再編、共通教育の充実化タスクフォースの設置、履修証明プログラム「人生100年時代の学び」の開始、文理融合コースの開設など

③融合型グローバル教育の浸透と発展

オンライン留学制度の導入、ウイバー州立大学とのダブルディグリー制度を利用した留学候補者の募集と選定、英語集中コースの見直しに向けた検討の開始、留学生の受け入れ強化に向けたプログラムの検討開始、グローバルを志向する学生のサポート体制の充実など

④地域連携の深化と教育への展開

地域連携教育プログラム拡充に向けた地域連携先との協議の開始、「関西湾岸SDGsチャレンジ」のオンライン活用によるハイブリッド開催、第3回キッズフェスティバルの企画・実施、公開講座・生涯学習の統合的な募集に向けた体制の整備など

⑤世界に通じる特色ある研究力の活用と展開

大学院充実化タスクフォースの設置、研究費執行に関する新システムの導入、研究年報の発行、独自展示会にむけた検討開始など

⑥「KONAN クオリティ」の追求と創造

ブランディングタスクフォースの設置、KONAN U. VISION 2025 冊子発行、高大接続とコミュニケーションの強化に向けた戦略の策定、コンプライアンスに関する体制の強化・整備など

(KONAN プレミア・プロジェクトのテーマ)

- ①KONAN 教育デザインプロジェクト
- ②KONAN 教育プログラム革新プロジェクト
- ③KONAN 融合型グローバル教育推進プロジェクト
- ④KONAN 地域連携推進プロジェクト
- ⑤KONAN 研究力展開プロジェクト
- ⑥KONAN クオリティ追求プロジェクト

戦略事業（先端生命工学研究所）（2014－2023 年度）

「生命の基盤的現象に関わる核酸の機能を解明し、その機能を化学的に活用して産業に貢献する」を大きな目標として、第Ⅱ期プロジェクトを組織的に推進する。卓越した研究力と優れた研究成果を発信することで、「核酸化学は KONAN FIBER」という研究ブランドを確立し、世界に通じる研究力を国内外に示す。また文部科学省科学研究費助成事業新学術領域研究（分子夾雑の生命化学）及び同事業基盤研究（A）で採択されている研究課題を継続的に遂行し、核酸の基礎科学、医工学応用に関連する研究で学術的・社会的に価値のある研究成果を得て、その成果を積極的に発信することで FIBER の研究力を示す。2021 年度は以下のような取り組みを行う。

- ・著名な学術誌への共同研究の成果発表を通じ、国際学術交易拠点となる。
- ・FIBER で博士研究員であった研究者との国際的な共同研究を進展させて、その成果を発表するとともに、それらの研究者の研究展開を支援する。
- ・国内外から、核酸の化学・技術に関連する研究分野を牽引する研究者を招聘し、可能であれば対面形式の国際シンポジウムを実施する。
- ・FIBER 教員や外部講師による公開講演会「FIBER 未来大学」を継続的に行う。また、対面開催が困難な場合は、オンラインセミナーを開催する。

(高等学校・中学校の取り組み)

①教育プログラムの開発・整備

学習サポーター及びチューターによる遅進者に対してのデジタル教材を用いた放課後学習のサポート、電子書籍導入や新聞記事・辞書等のデータベース検索環境の整備、OB を招聘したキャリアデザイン授業やワークショップの実施、企業訪問など

②国際交流の推進

現状の交換留学・海外交流プログラムの見直し・改善及びポストコロナに向けたプログラムの立案など

③教育環境の整備

化学実験室の AV 施設リプレースや特別教室の AV 機器導入、仮想ネットワーク拡張によるネットワーク環境の安定化など

④ 高中運営の持続的発展

ノート PC や iPad 等の導入と資料の電子化と共有フォルダへの投稿による会議のペーパーレス化の推進など

(法人の取り組み)

① 学園運営の一層の健全化

1. 学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備

学園独自の奨学金制度の設計変更（国の修学支援制度を基本とする形に）、課外活動団体における会計の健全化、甲南スポーツニュースの配信など

2. 高等教育機関としての研究機能向上と社会・地域への貢献

総合研究所等の各研究所の機能・成果の評価実施、発注システム導入による研究費執行業務の効率化など

3. リスクマネジメント体制の強化

ポストコロナに向けたパンデミック対応マニュアルの整備、自然災害対応マニュアルの見直し、内部通報制度の円滑な導入に向けた通報窓口の整備、ハラスメントにおける相談窓口・対応体制の強化、ネットワークのリモート監視サービスの本格運用など

4. 強靱な組織体制の構築と整備

次期財務・会計システムの検討、電子決裁システムの導入、在宅勤務（テレワーク）環境の整備、オンライン会議システムの導入と会議の ICT 化活用、教職員の健康増進と福利厚生を目的とした新制度の整備など

② 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

老朽化施設の解体による耐震化率 100%達成、エネルギー使用合理化のための照明の LED 化や空調更新工事实施、化学物質リスクアセスメントの法令に対応するための排気設備の整備など

③ 財政基盤の強化

1. 健全な財務体質の維持・向上

業務の内製化・外製化の適切性検討による業務仕分け、全学的な予算 PDCA サイクルの構築のための予算申請・執行・決算のフローの見直しなど

2. 学納金収入以外の財源多様化の推進

資金運用及び保管に関する規程の点検による運用方針確立、学園所有施設の外部貸出における収支見直しや活性化による収入増加など

④ 社会との結節点としての広報機能の拡充

主に卒業生や地域の方とつながるための活動として Web サイトやメールマガジン等による情報配信、青少年の育成支援・地域社会への貢献を目的としたスポーツ・芸術活動への協賛、同窓会との各種行事の共同開催・各地甲南会などとの関係強化、大学 HP や報道機関を通じた適時情報発信など

学園中期計画推進のためのプロジェクト

複数のプロジェクト、委員会、タスクフォースを設置し、学園中期計画の推進を図る。

1. 甲南高中将来構想委員会（2020.10～継続）

甲南高等学校・中学校の成長発展目標を定め、そのための具体的な行動計画をまとめていく。本委員会の下に、中高大接続検討小委員会を設け、中高大一貫教育について検討する。

2. つながる学園プロジェクト(2020.7～継続)

KONAN-PLANET 構築タスクフォース、KONAN-PLANET コンテンツ充実化タスクフォース、つながる情報発信タスクフォースの活動を継続しつつ Web サイト・コンテンツ制作運営体制を構築し、2021 年度は「KONAN-PLANET」Web サイトを立ち上げ、メルマガの発信を開始する。卒業生や地域の方々、また教職員同士がつながりを深め本学の社会的評価を向上すべく、甲南学園の情報を届けていく。

3. KONAN-DX プロジェクト（2020.7～継続）

電子決裁システムの導入と学園グループウェアワークフロー活用タスクフォース、在宅勤務（テレワーク）環境整備タスクフォース、オンライン会議システムの導入と会議の ICT 化活用タスクフォースの活動を継続し、業務の電子化推進により労働生産性の向上を図り、加えて有事（自然災害・社会災害・パンデミックなど）においてもより安定的に業務運営できる環境を整備する。

4. スポーツ強化支援検討タスクフォース（2020.11～継続）

今後のスポーツ強化支援の在り方、課外活動（スポーツ）に関する方針等を含め、第 4 期スポーツ強化指定制度に続くスポーツ強化策を検討する。

5. 研究費執行業務効率化タスクフォース（2020.12～継続）

学園全体で研究費執行業務を効率化し、フロンティア研究推進機構を中心に研究がさらに推進される体制を構築する。

新型コロナウイルス感染症対策

・「甲南学園新型感染症対策本部」を中心に、文部科学省や兵庫県の示すガイドラインに沿った感染症対策を継続・徹底する。

・2021 年度の大学の授業は、原則対面授業とし、規模や特性によって「3つの密」を避ける対策が難しい授業は Web を活用した形態で実施する。中高の授業は、対面授業を基本とし、感染状況にフレキシブルに対応しながら、Web 活用、時間短縮などを取り入れる。

・検温ブース設置など、感染予防対策のための施設設備の維持・改修を実施する。

・各種行事や課外活動などは、感染状況に応じたレベルに沿って行う。

・入学試験については、緊急事態に対応するための振替試験場確保や専用の電話相談窓口設置など、受験生の安心につながる対策を行う。

以 上